

## 114 良い牧者(1)

ヨハネによる福音書 10 : 1~10

..... 仮庵祭の7日目のこと (十字架にかかる前の年、半年前の仮庵祭).....

01 「(ファリサイ派の人たち、) **はっきり言うておく。**

**羊** (→神の民の象徴=羊の群れ、詩編 77 : 21、80 : 2、イザヤ 40 : 11) **の囲い** (→夜中に羊を守るための茨や石の柵囲い) **に入るのに、(門番—獅子、狼等の番—のいる) 門を通らないでほかの所を乗り越えて来る者は、盗人であり、強盗である。**

02 **門から入る者が羊飼いだ。**

03 **門番は羊飼いは門を開き、羊はその(羊飼いの) 声を聞き分ける。羊飼いは自分の羊の名を呼んで連れ出す。**

04 **自分の羊をすべて連れ出すと、先頭に立って行く。(すると) 羊はその声を知っているので、ついて行く。**

05 **しかし、ほかの者(→ファリサイ派の人たち)には決してついて行かず、逃げ去る。** (なぜなら、羊は) **ほかの者たちの声を知らないからである。** W拒否

→羊=神の民、羊飼い(牧者)=指導者(王、祭司)  
→イエスは「良い羊飼い」(ヨハネ 10 : 11、14)である。

→門番 : ①~③

- ①旧約聖書の預言者たち、②バプテスマのヨハネ、③聖霊(私たちの心の扉を開いてくださる方)

→ファリサイ派の人たちは、口伝律法を作り、いかにも羊飼いであるかのように振舞った。彼らは、モーセの律法を知っていると叫びながら、イエスを信じなかった。そして、イエスを信じた人々を会堂から追放した。



### 【参考】羊飼いが職業であった人々(一部) 主、アベル、アブラハム、ロト、ヤコブ、ヨセフ、モーセ、ダビデ

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 8 / 聖句等の総数 33250 ]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
K 創世記	4:2 彼女はまたその弟アベルを産んだ。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった。	
K 創世記	13:5 アブラムと共に旅をしていたロトもまた、羊や牛の群れを飼い、たくさんの天幕を持っていた。	
K 創世記	13:8 アブラムはロトに言った。「わたしたちは親類どうした。わたしとあなたの間ではもちろん、お互いの羊飼いの間でも争うのはやめよう。」	
K 創世記	29:7 ヤコブは言った。「まだこんなに日は高いし、家畜を集める時でもない。羊に水を飲ませて、もう一度草を食べさせに行ったらどうですか。」	
K 創世記	37:2 ヤコブの家族の由来は次のとおりである。ヨセフは十七歳のとき、兄たちと羊の群れを飼っていた。まだ若く、父の側女ビルハやジルバの子供たちと一緒にいた。ヨセフは兄たちのことを父に告げ口した。	
K 出エジプト記	3:1 モーセは、しゅうとでありミディアン人の祭司であるエトロの羊の群れを飼っていたが、あるとき、その群れを荒野の奥へ追って行き、神の山ホレブに来た。	
K サムエル記上	17:34 しかし、ダビデは言った。「僕は、父の羊を飼う者です。獅子や熊が出て来て群れの中から羊を奪い取ることがあります。」	
K 詩編	23:1 【賛歌。ダビデの詩。】主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。	

06 イエスは、このたとえをファリサイ派の人々に話されたが、彼らはその話が何のことか分からなかった。

07 イエスはまた言われた。

「はつきり言っておく。わたしは（わたしに従う者を守り保護する）**羊の門**である。08 わたしより前に来た者は（神が求める真理から人々を遠ざける者たちで、それらの者たちは、例えて言えば）**皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊は彼らの言うことを聞かなかった。**09 わたしは門である。わたしを通して入る者は救われる。その人は、門を出入りして牧草を見つける。10 盗人が来るのは、盗んだり、屠ったり、滅ぼしたり（自分たちの利益のために、羊を搾取）**するためにほかならない。**（しかし、）**わたしが来たのは、羊が命を受けるため、しかも（命を）豊かに受けるためである。**（ファイル No.115 つづく）

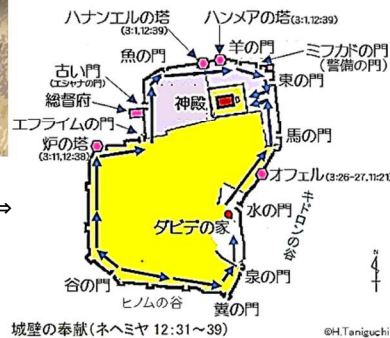
→**羊の囲いの門**（1、2 節） the gate is the shepherd of the sheep(NIV) / the sheepfold by the door (NKJV)  
羊飼い、指導者、イエス・キリスト(良い羊飼い)

→**羊の門**（7 節） the gate for the sheep(NIV) / the door of the sheep(NKJV)

→イエスだけが、神の国に入るための門である。

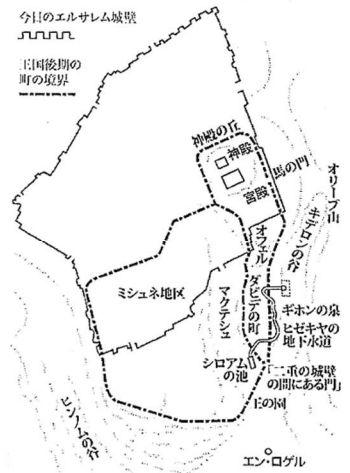


第二神殿(エルサレム神殿、ヘロデ神殿)にある門等 ⇒ 「羊の門」もある



城壁の奉献(ネヘミヤ 12:31~39)

©H.Taniguchi



### 【参考】詩編 23 編<賛歌・ダビデの詩>

01 【賛歌。ダビデの詩。】主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

02 主はわたしを青草の原に休ませ／憩いの水のほとりに伴い 03 魂を生き返らせてくださる。主は御名にふさわしく／わたしを正しい道に導かれる。04 死の陰の谷を行くときも／わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。あなたの鞭、あなたの杖／それがわたしを力づける。

05 わたしを苦しめる者を前にしても／あなたはわたしに食卓を整えてくださる。わたしの頭に香油を注ぎ／わたしの杯を溢れさせてくださる。

06 命のある限り／恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り／生涯、そこにとどまるであろう。

### 【参考】イザヤ書 53 章

01 わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあろうか。

02 乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように／この人は主の前に育った。見るべき面影はなく／輝かしい風格も、好ましい容姿もない。

03 彼は軽蔑され、人々に見捨てられ／多くの痛みを負い、病を知っている。彼はわたしたちに顔を隠し／わたしたちは彼を軽蔑し、無視していた。

04 彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであったのに／わたしたちは思っていた／神の手にかかり、打たれたから／彼は苦しんでいるのだ、と。

05 彼が刺し貫かれたのは／わたしたちの背きのためであり／彼が打ち砕かれたのは／わたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって／わたしたちに平和が与えられ／彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた。

06 わたしたちは羊の群れ／道を誤り、それぞれの方角に向かって行った。そのわたしたちの罪をすべて／主は彼に負わせられた。

07 苦役を課せられて、かがみ込み／彼は口を開かなかった。屠り場に引かれる小羊のように／毛を刈る者の前に物を言わない羊のように／彼は口を開かなかった。

08 捕らえられ、裁きを受けて、彼は命を取られた。彼の時代の誰が思い巡らしたであろうか／わたしの民の背きのゆえに、彼が神の手にかかり／命ある者の地から断たれたことを。

09 彼は不法を働かず／その口に偽りもなかったのに／その墓は神に逆らう者と共にされ／富める者と共に葬られた。

10 病に苦しむこの人を打ち砕こうと主は望まれ／彼は自らを償いの献げ物とした。彼は、子孫が末永く続くのを見る。主の望まれることは／彼の手によって成し遂げられる。

11 彼は自らの苦しみの実りを見／それを知って満足する。わたしの僕は、多くの人が正しい者とされるために／彼らの罪を自ら負った。

12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに数えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。

### 【参考】茨(いばら)

キリストは受難において、茨(いばら)の冠を頭にかぶらせられました。

この茨は、エルサレム周辺でも簡単に見つかるイスラエル原産のバラ科の常緑樹「トゲワレモコウ」(＝シラー、トゲハマナツメ)とされています。

「トゲワレモコウ」は、とげ(棘：➡部分)が長く硬いので、今でも有刺鉄線のように使われ、侵入防止の柵にからめたり、羊を守る石垣の上に置いて、獣の侵入を防ぐのに役立っているそうです。

聖書(創世記)では、いばらは最初の人アダムとエバが、エデンの園で罪を犯した結果、地面から生え出てきたものであると記されています。

→創世記3:17～18

神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い／取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。お前に対して／土は【茨】とあざみを生えいでさせる／野の草を食べようとするお前に。堅いとげでチクリと刺すいばらは、私たち人類の罪を象徴するものになりました。

聖書には「茨」が53回、48聖句に登場します(旧約:37回/35聖句、新約:16回/13聖句)。



### 【参考】トゲワレモコウ

バラ科サルコポテリウム属、常緑低木、学名: Sarcopoterium spinosum、原産地: イスラエル

は目からみるとトゲの塊のような小さな樹木。実はキリストの茨の冠に使われたという伝承のある植物である。イスラエルなどでは乾燥地から湿地までいたるところに生えているという。火力があり、火の焚き付けに使うと大きな音をたてるらしい。トゲが鋭いので、現地では羊よけなどに植えるという。日本ではあまり見られない珍しい植物である。キリストの茨の冠に使われたといわれる植物は、他に「キリストイバラ」という植物(現存?)があり、どちらかははっきりしない(東京都薬用植物園)。